

私立大学図書館協会 2007 年度第 4 回国際図書館協力委員会議事要録

日 時：2007 年 12 月 7 日（金）15:00～17:00

場 所：日本図書館協会会館 5F 会議室 2

出席者：落合万里子（同志社大学）、飼沼敏雄（名城大学）、風間茂彦（慶應義塾大学）
新田晶平（大阪学院大学）、三浦 治（帝京大学）、丸本 操（東京経済大学）

事務局：関 達朗（東京経済大学）

配付資料：

- (1) 支援企業一覧
- (2) 海外派遣研修
 - ・ 2008 年度参加者募集案内文書（案）
 - ・ 参加申請書書式
- (3) 第 2 回寄贈資料搬送事業
 - ・ 申請状況一覧
 - ・ J C C への見積依頼文書
- (4) 国際図書館協力シンポジウム
 - ・ 開催案内文書（案）
 - ・ 参加申込書書式
 - ・ パネル・ディスカッション参加者の推薦について
- (5) 海外集合研修
 - ・ 参加者募集案内文書（案）
 - ・ 参加申込書書式
- (6) 今年度予算執行状況

回覧資料：

第 2 回寄贈資料搬送事業

- ・ 申請書および送付先受贈承諾書コピー

審議事項：

- 1 . 国際図書館協力基金の納入状況について
 - ・ 委員長より、配付資料 1 に基づき、納入予定を含め現在までに 1 0 社より計 1 1 0 万円の入金
が確定しているとの報告があった。
 - ・ この数年納入実績があり、今年度は未入金の企業について、再度の依頼をどうかについて
審議した結果、各委員が接触可能な業者（ 4 社）については再度文書での依頼を行った後、
各委員から口頭でも依頼するということが了承された。
- 2 . 2008 年度海外派遣研修について
 - ・ 委員長より、配布資料 2 に基づき、基本的には例年通りイリノイ州モーテンソンセンターとの
協定に基づくプログラムの実施であり、スケジュールもほぼ例年通りである旨報告があり、年
内できるだけ早い日程で案内を発送するということが了承された。
 - ・ 案内文の中に意味がわからない部分（健康保険に関して）がある旨指摘があり、事務局で発送
までに確認し、不要であれば削除することが了承された。

3. 第2回寄贈資料搬送事業

- ・委員長より、配布資料3および6に基づき、第2回の申請状況と予算執行状況について報告があり、どの案件を採択するかについて審議を行った。
- ・前回に引き続き2度目の申請となる大学があるが、これは平等性の点から今回は除外し、1度目の大学を優先させるべきではないかという意見が出され、審議した結果、以下のように取り扱うことが了承された。
 - 前回申請している2大学については、事情を説明した上で今回は採択見送りとし、新規に申請のあった4大学について、予算範囲内での執行とする。
- ・寄贈資料搬送事業費としては予算が限られているが、国際図書館協力委員会予算に、予備費としてかなりの額が計上されているので、そこから補填して、申請されたものはできる限り執行することはできないかという意見が出され、事務局から会長校に確認することとした。
- ・採択の優先順位をつけるためにも、これまでの申請および執行の実績一覧が必要ではないかとの意見が出され、事務局で調査することとした。

4. 国際図書館協力シンポジウムについて

- ・委員長より、前回委員会からこれまでの調整経過について報告があった。
 - メイン講演者の Wilson 氏については、来日の意思があることは間違いのないことが確認された。
 - 演題等の詳細については、紀伊國屋書店新元氏を通じて早急に確認することとした。
- ・パネル・ディスカッションの参加者として内諾を得ている慶應義塾大学市古氏より、パネリストとして Martha Kyriallidou 氏 (ARL 所属) が推薦された旨、風間委員より報告があり、プログラム内容も含めて審議した結果、以下のように取り扱うことが了承された。
 - パネルに参加するだけか、講演者としてもう1本講演をたてるかという選択肢があるが、いずれにせよ通訳等の費用が大幅に増額される。
 - パネルに参加するだけとしても、日本側の参加者が現在2名に内諾を得ており、さらに司会者として1名加えると5名となりパネル・ディスカッションとしては少々多いように思える。
 - 上記のような理由から、Kyriallidou 氏の参加は見送り、当初の予定通りメインの講演1本にパネル・ディスカッション(3名+司会者1名)の構成とする。
- ・内容についての詳細は2008年1月中に確定し、案内発送の予定とする。

5. 海外集合研修について

- ・委員長より、前回委員会からこれまでの調整経過について報告があった。
 - シンポジウムに関して窓口となっていたワシントン大学の Keiko Yokota-Carter 氏との調整を通じて、ワシントン大学の図書館での研修がほぼ実現できそうな方向が見えてきている。
 - Yokota-Carter 氏が11月末まで日本に滞在していたため、現地での調整ができず確認が遅れていたが、早急に詳細を確認する必要がある。
 - その確認については、シンポジウム同様紀伊國屋書店新元氏に仲介を依頼する。
- ・Yokota-Carter 氏からは、研修費用としてワシントン大学に対して\$500程度の支払いは可能かという打診があり、これについて審議した結果、その支出は問題ないということが了承された。
- ・予定としては2008年3月2日(日)から7日(金)の6日間を設定していたが、その場合実際に研修に当てられる日数は3日間となり少々短いので、日程を8日までに伸ばし、計7日間に変更できないかという意見が出され、詳細確認とあわせて早急に打診することとした。
- ・内容についての詳細は12月中に確定し、案内発送の予定とする。

報告事項：

1. 予算執行状況

委員長より、資料6に基づき、現時点での予算執行状況と、今後の執行予定の概要について報告があった。

以 上